



護金伊

國達

澤

顯

實

秘

太平

記記錄

全全全

(岡山製本)

大正三年十二月十七日印刷
大正三年十二月二十日發行

有朋堂文庫
女太平記・金澤實
記・伊達顯祿

(非賣品)

編輯者兼
發行者

三浦理

東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷者

平井登

東京市本所區番場町四番地

印刷所

凸版印刷株式會社分工場

東京市本所區番場町四番地

發行所

有朋堂書店

東京市神田區錦町一丁目十九番地

不許複製

緒言

本集は「御家騒動もの」として廣く世に行はるゝ記録中、最も著名なるもの三篇を收む。護國女太平記は講談に所謂「柳澤騒動」、金澤實記は「加賀騒動」、伊達顯祕録は「仙臺騒動」にして、共に其藩内に起りし多少の事件事實を附會誇張し、巧に之れを脚色して一部の實錄的小説を構成せるもの也。其作者は共に今詳かならず。蓋し主として當時の舌耕者流中文字あるものが、其所謂「講釋」の種本として起草せるものなるべく、女太平記の一篇は、元録の頃小人目付を勤めし何某の作に係れりとも稱せらる。

已に然り、されば其内容の多く史實と交渉する所なきは更にもいはず、其行文また決して文學として多くの價值を認むべきものにあらず。只その上下階級の制嚴にして一步も百姓町人風情の窺竅を許さざりし諸侯の内幕を種として、彼等の面前に忌憚なく其弱點と秕政とを暴露し、大いに其好奇心を慫慂せしむると同時に、又彼等をして日頃の壓迫に對する一種の輕き復讐的快感を感じしめ、且又事件の内容錯綜紛糾して甚だしく筋の變化に富み、

一波急ち萬波を起し、正邪奸忠相撃ち相闘ひ、禍福吉凶相來往して、殆んど端倪すべからざるものあり、而も一絲亂れずして正よく邪に勝つの大團圓を結び、讀者聽衆をして、時に切齒扼腕血涌き肉躍るの概あらしめ、時に慄然として白刃を踏むの思あらしめ、時に又赧然として深く自ら省るの念を起さしむるものあるに至りては、亦これ好箇一篇の平民文學として、永く後昆に傳ふるの價值なくんばあらず。これ本文庫が代表的名作とも稱すべき此三篇を收めて、他の一流文學書類と伍を同じうせしむる所以也。

本書の校訂及び校正に關しては椿強祐、外島瀏二氏を煩はしたる所多し。記して勞を謝す。

大正三年十二月

校訂者 塚 本 哲 三

目錄

護國女太平記

- 峯の藥師寅童子二體の事竝
是源寺由來の事……………一
- 左馬頭殿亂酒短慮の事竝根
津卯右衛門御手討の事……………六
- 大老酒井雅樂頭我意を振ふ
事竝左馬頭殿御生害の事……………三
- 智積院隨高坊御目見の事竝
柳澤彌太郎牧野へ立入る事……………一五
- 柳澤彌太郎初めて加増の事
竝女房より花籠獻上の事……………一九
- おさめ御前に於て詩歌を詠
する事竝牧野柳澤相談の事……………二五
- 將軍家綱公御病氣の事竝雅

樂頭偽言披露の事……………二六

○堀田備中守秀言の事竝酒井
雅樂頭切腹の事……………三一

○館林卿御所縁の輩出世の事
竝護持院僧正御祈願所と成
る事……………三三

○酒井稻葉曾根權太夫に取入
る事竝進藤新五郎惡逆の事……………三七

○御令嗣德松君御逝去の事竝
酒井雅樂頭下馬將軍名稱の
事……………四二

○諸大名能興行上覽の事竝牧
野本庄兩屋敷へ御成の事……………四五

○柳澤出羽守御臺所へ藝子を
上ぐる事竝柳澤出羽守六萬
石に立身の事……………四八

○湯島聖堂御建立の事竝殺生

- 禁制御觸の事・・・・・・・・・・五二
- 須賀金彌御預と成る事並牧
野備後守御役御免の事・・・・・・・・五四
- 柳澤所々の傾城を請出す事
並菊の花上覽の事・・・・・・・・五八
- 柳澤珍遊を以て御加増賜る
事並諸侯婚姻を望む事・・・・・・・・六〇
- 藤井紋太夫柳澤に親む事並
柳澤大老職に成る事・・・・・・・・六四
- 柳澤再び美女を抱へる事並
肝煎五兵衛平藏を欺く事・・・・・・・・六八
- 荒濱團藏五兵衛夫婦を殺す
事並伴十郎平藏を切る事・・・・・・・・七四
- 柳澤松平の苗氏を賜る事並
伊井本多評議の事・・・・・・・・七八
- 黃門光國卿紋太夫を御手討
の事並美濃守虚言の事・・・・・・・・八三
- 美濃守諸國の名士を抱へる
事並金吾柳澤に救はるゝ事・・・・・・・・八七
- 米田伴内三十三間堂通し矢
の事並金吾安閑堂良山を頼
む事・・・・・・・・九二
- 河村瑞軒柳澤に取立てらる
る事並大坂川筋を掘る事・・・・・・・・九七
- 島津殿願に付き評定の事並
細川越中守殿扱ひの事・・・・・・・・一二
- 井伊掃部頭殿島津殿へ行か
るゝ事並柳澤美濃守京都へ
飛脚を立つる事・・・・・・・・一〇六
- 河村瑞軒自害の事並柳澤頓
智御褒美の事・・・・・・・・一一
- 鮎屋五郎八踊子を賣る事並
松平右京太夫殿仁心の事・・・・・・・・一四
- 井伊掃部頭殿増上寺御參詣
の事並淺田鐵之丞忠死の事・・・・・・・・二〇

○柳澤下野名畫の譽を顯す事
竝下野珊瑚珠御刀掛拜領の
事……………二二四

○神田旅籠町犬の煩ひの事竝
平助手柄立身の事……………二二九

○柳澤美濃守百萬石の御墨附
を賜る事竝護持院調伏の法
を行ふ事……………二三二

○柳澤大坂に藏屋敷を建つる
事竝淀屋辰五郎へ用金申附
くる事……………二三五

○大久保大隅守殿辰五郎が白
無垢を吟味の事竝小池四郎
兵衛金子を失ふ事……………二三八

○美濃守差圖にて關所申付け
る事竝江戸表へ寶器を取寄
する事……………二四四

○北の丸新御殿御普請の事竝

お鷹父母を尋ねる事……………一四八
○間部越前守土中を窺ふ事竝
御加増役替の事……………一五〇

○甲斐守御養子發端の事竝御
臺所諫言の事……………一五四

○井伊掃部頭御奥へ召さるゝ
事竝吉保連判狀の事……………一五七

○諸大名軍手配の事竝根城兵
糧用意の事……………一六〇

○賢女劔を以て國を護る事竝
諸大名夜中登城の事……………一六五

○柳澤百萬石の御墨附を召上
げらるゝ事竝甲斐守家督相
續の事……………一六九

北雪金澤實記

○加州家山獲御遊の事……………一七三

○大槻長玄出世の事……………一七六

○江戸神田橋喧嘩の事	一八一
○大槻長玄史を讀んで志操を 變ずる事	一八三
○長玄謀つて毒藥を盗む事	一八五
○大槻長玄奸計を以て立身を 爲す事	一八七
○金澤城に於て老臣評議の事	一九二
○大槻傳藏昇進の事	一九五
○吉徳公諸老臣を罰し給ふ事	一九七
○大槻傳藏刺客の謀計を用ゆ る事	一九九
○加州より名馬を江戸屋敷へ 獻ずる事	二〇三
○谷江藤左衛門横死の事	二〇八
○大槻謀つて瀧澤を拒む事竝 淺野家火災の事	二一〇

○大槻傳藏廣島へ急書を送る 事	二一四
○淺野義長公瀧澤の怠慢を怒 り給ふ事	二一六
○瀧澤頼母自殺の事	二一九
○坂井郡の農民大槻へ愁訴の 事	二二三
○農民等莊屋の居宅へ仇する 事	二三五
○大槻内藏之丞百姓等の騷亂 を鎮むる事	二三八
○淺井主税女行狀の事	二三〇
○加賀家の庶子袴著の事	二三五
○お貞の方大槻内藏之丞に事 を託す事	二三八
○老女玉笹お貞の方の不品行	

を窺ふ事……………二四二

○玉笹謀計を遺して江戸に赴く事……………二四五

○侍女雛次密書を奪ふ事……………二五〇

○大槻内藏之丞謀つて吉徳公の書券を乞ふ事……………二五三

○野路井又助が事……………二五八

○吉徳公姫川にて凶變に遇ひ給ふ事……………二六〇

○前田土佐守一騎關を踰ゆる事……………二六四

○前田土佐守前田對馬守の旅館にて密談の事……………二六八

○加賀家代替の事……………二七〇

○和田源左衛門が事……………二七三

○玉笹路次に於て勇を顯す事……………二七七

○餘慶院殿玉笹が冤罪を宥し給ふ事……………二八〇

○甘き詞を述べて内藏之丞を欺く事……………二八三

○内藏之丞往々黨を集むる事……………二八五

○大槻内藏之丞謀つて岩井甚三郎を服する事……………二八九

○惡黨等君を蕩さんと謀る事……………二九三

○忍術を試みて内藏之丞刺客を用ゆる事……………二九八

○和田源左衛門深夜に曲者を捕ゆる事……………三〇二

○玉笹再び密書を奪ふ事……………三〇四

○大槻内藏之丞奸計を用ひて君を弑する事……………三〇九

○前田土佐守江戸に移る事……………三一三

○江戸屋敷の諸士咎を受くる事……………三二五

○大槻内藏之丞謀計を遺して國に歸る事……………三二九

○饗宴を窺うて老女淺尾毒を投るゝ事……………三三三

○大槻内藏之丞隱謀露顯の事……………三三六

○大槻の家來召捕の事並勢之助殿お貞の方押籠の事……………三八

○岩井甚三郎出奔して召捕らるゝ事並密事白狀の事……………三三〇

○前田土佐守野路井又助を拷問の事並大槻内藏之丞罪に服する事……………三三四

○大槻獄舎の番卒を謀つて自殺の事……………三四〇

○惡徒等を罪する事並老女淺

尾蛇責の事……………三四四

○お貞の方眞女院と改め變死の事……………三四六

○勢之助殿出家願の事並變死の事……………三四七

○眞女院の明屋敷妖怪の事……………三五〇

○吉田勘左衛門射術の事……………三五二

○重照公御逝去の事並重信公御家督の事……………三五四

○曲者土佐守へ仇する事並高桑政右衛門最期の事……………三五六

○加州金澤大火の事……………三五八

○生駒權左衛門格言の事……………三六〇

○生駒三士の畧傳の事……………三六〇

○長谷寺新祭興行の事……………三六三

伊達顯祕録

- 豊臣秀吉公の靈を加州へ祭
る濫觴の事……………三六四
- 前田兵左衛門が事竝前田家
太平に治る事……………三六五
- 伊達家系圖政宗由緒の事……………三六九
- 伊達兵部竝原田甲斐出生由
來の事……………三七三
- 伊達の家臣等横死を遂ぐる
事……………三七七
- 綱宗三谷通の事……………三八五
- 綱宗高尾を身請三股にて手
打の事……………三八九
- 仙臺の諸士江戸へ到著の事
竝綱宗隱居の事……………三九二
- 龜千代後見願評議の事……………四〇二
- 伊達兵部後見となり逆意を
振ふ事……………四〇八
- 谷原檢地割の事竝目附中安
藝家人爭論の事……………四二三
- 大場道益逆意に引入れらる
る事……………四二七
- 逆徒等幼君を毒害せんと謀
る事……………四二九
- 呪咀の謀計淺岡松前危難に
及ぶ事竝松前直宿忍の者を
防ぎ捕ふる事……………四三五
- 渡邊金兵衛菓子を獻ずる事
竝名月の夜安藝が館へ盗人
入る事……………四三三
- 逆徒等重れて安藝を計らん
とする事……………四三六

○松前鐵之助武勇の事並荒木和助召捕られ拷問の事	四三九
○神並三左衛門出奔仙臺へ赴く事並伊達安藝兵部が悪意を訴へんと企つる事	四四三
○安藝小十郎密談の事並宗重江戸へ訴の事	四四五
○涌谷の館にて宗重間者藤井を捕ゆる事	四四九
○伊藤七十郎勇力の事並横死怨念の事	四五二
○伊達安藝江戸へ召さるゝ事並仙臺の諸士暇乞の事	四五四
○安藝到着に付兵部甲斐密談の事	四五九
○板倉内膳正殿へ原田甲斐手入の事並内膳正重知由緒の事	五二九
事	四六四
○足輕木戸彌兵衛夫婦逆徒に組する事	四七〇
○安藝初めて評定所へ召さるる事	四七四
○兵部少輔評定所へ召出さるる事並蜂谷六左衛門が事	四七六
○伊達兵部原田甲斐惡心二十七箇條口上書の事	四七八
○安藝評定所へ召出さるゝ事並兵部甲斐と相談の事	四八八
○兵部少輔評定所へ召出さるる事並原田甲斐御吟味の事	四九五
○三月十日對決の事	五〇三
○伊達安藝原田甲斐問答の事	五一〇
○三月十六日對決の事	五二九

○原田甲斐陳謝後對決を願ふ
事……………五二八

○酒井雅樂頭殿内意の事竝赤
川權六生捕らるゝ事……………五三三

○雅樂頭殿御宅へ兵部少輔招
れ密談の事……………五三八

○原田甲斐罪に服する事……………五四三

○原田甲斐雅樂頭殿屋敷へ忍
びて赴く事……………五四九

○三月二十七日雅樂頭殿宅に
て對決の事竝原田甲斐狼藉
伊達安藝を切害の事……………五五八

○松前鐵之助白石の城へ飛脚
の事……………五六七

○江戸表より注進仙臺表周章
の事……………五七三

○原田大藏兄弟籠城評議の事……………五七六

○片倉家來由の事……………五八一

○片倉小十郎信夫の館へ使者
を遣す事竝三使問答大藏兄
弟狐疑の事……………五八三

○片山隼人殺害せらるゝ事竝
大藏兄弟擒となる事……………五九〇

○仙臺靜謐小十郎江戸表へ登
る事……………五九四

○兵部少輔宗勝流罪に行はる

る事竝伊達家安堵の事……………五九六

○大藏兄弟切腹竝徒黨の族仕
置の事……………六〇一

目
錄

護國女太平記

○峯の藥師寅童子二體の事并是源寺由來の事

抑三河國の住人徳川三河守廣忠公未だ世嗣の男子在さねば、奥方は深く歎き給ひ、同所鳳來寺なる峯の藥師に祈願を籠め、朝暮信心淺からず念じ給ひしに、程なく懷胎有りて、天文十一年寅十二月二十六日男子出生なし給ふ。御夫婦の御歡び大方ならず、則ち御名を竹千代君と稱しけるが、不思議なるは彼の藥師如來の十二體の内、金比羅大將の化身なる寅童子の一體、竹千代君御誕生の其日より紛失しけるに、藥師の寺僧等大に驚き、種々尋ねけれども行方知れず、是に依つて京都より佛師を召寄せ、新に寅童子一體を刻ませ、以前の如く十二童子を揃へ置きたりける。然るに此竹千代君御成長に隨ひ才智深く、御若年にて御父に別れ給ひ、今川義元の介抱にて三州の御領地を治め給ひ、御名を改め、義元の一文字を取り徳川藏人元康と名乗り給ひしが、後に家康と改め給ふ。或時酒井雅樂頭を召して仰せけるは、「我前夜夢を見たり。夫

夢は五臓の煩と言へり、其證據には、未だ見聞せざる所は夢に見る事なし。然るに昨夜左の手
に是といふ文字を握りたる夢を見たり。思ひ寄らざる夢なれば不思議に思ふなり」と仰せける
に、雅樂頭承り、「仰の如く未だ見聞かざる事は夢見る事稀なり。然ば和漢共に、至つて珍し
き夢を見れば必ず善惡の驗ありと、私武邊の身なれば、斯様の儀辨へ難し。吉凶を占はせられ
然るべし」と申上げ、則ち御懇意の禪僧龍閑院へ右の御物語有りて吉凶を御尋あれば、龍閑院
暫く考へ大に驚き、「是は古今の吉夢此上なし。君は天下を知召す瑞相なり。御武運四海に秀
で、御一生に六十餘州を治め給ふ事更に疑無し」と賀し奉りければ、元康公笑せ給ひ、「貴僧の
詞誠しからず、我天下を取るべき事占を以て申さるゝ哉、其理不審なり」と宣ふに、龍閑院
答へて申す様、「是と云ふ文字を書く時は日下の人なり。然れば君が是を握り給ふは正しく日本
を握り給ふ印なり。扱又左の手は陽にして右は陰なり、爰を以て天下を知食す事疑無し」と申
上ぐるに、元康公大に感じ給ひ、「道理なる考なり、左程に後年の事を知るなれば、末世に至り
て我子孫の盛衰如何有るべき」と問せ給ふに、僧考へて指を折り、「君の御生れ年は寅なり、是
は親指に象り、二代を人指、是を卯に取り、三代を中指、是を辰に取り、四代を薬指、是を巳
に取り、五代を小指、是を午に取り、親指より小指迄算ふる時は、寅卯辰巳午と天下五代は握り